

慈恵西部医療センターと患者さんをつなぐ情報誌

2026 SPRING

TOMONI

vol.17

と

も

に

特集

患者さんも地域の方も、
「また来たくなる」ような
病院を目指して



「つなぐ」医療で 患者さん、ご家族、地域社会を支えます

東京慈恵会医科大学西部医療センター 院長 平本 淳



東京慈恵会医科大学西部医療センターは、長年にわたり狛江市・調布市・世田谷区を中心とした地域医療を担ってきた東京慈恵会医科大学附属第三病院の歴史を受け継ぎ、2026年1月、新たな名称のもとリニューアルオープンいたしました。

今回のリニューアルは、建物を新しくするだけではなく、医療・教育・研究の三本柱をさらに充実させ、これからの地域医療を支え続ける病院として新たな一步を踏み出すものです。その根底にある想いが「つなぐ」という言葉です。「診療をつなぐ」、「地域をつなぐ」、「人生をつなぐ」、「歴史をつなぐ」、そして「未来へつなぐ」——私たちはこの5つのつながりを大切にするという考えのもと、患者さんお一人おひとりの人生によりそう医療の実現を目指しています。

当院は一般病床494床を有する大学附属病院として、内科系・外科系を中心とした幅広い診療科と、放射線部や内視鏡部などの中央診療部門が連携し、患者さん一人ひとりに合わせた医療を行っています。急性期医療から回復期、退院後の生活を見据えた支援まで、切れ目のない医療体制を整え、地域の医療機関と協力しながら安心して受診いただける環境づくりに努めています。

地域医療支援病院としては、地域の医療機関との連携を大切にし、紹介・逆紹介を基本とした「二人主治医制」を推進しています。また、救急専門医の増員により、全科で支える24時間体制の二次救急医療を行い、いざというときにも頼っていただける病院を目指しています。新たに開設した脳神経・脳卒中センターでは、血管内治療を含む高度な医療を24時間365日提供しています。

さらに、東京都がん診療連携拠点病院として、外来化学療法、緩和ケア病棟、がん相談支援などを含めた包括的ながん診療を推進するとともに、認知症医療、感染症医療、災害医療にも力を入れています。

「病気を診ずして病人を診よ」という建学の精神のもと、私たちはつねに安全な医療と思いやりのある対応を心がけ、地域で最も信頼される病院であり続けたいと考えています。患者さん、ご家族、そして地域社会に安心と希望を届け、笑顔を明日へ「つなぐ」医療の実現に向け、その思いを胸に歩んでまいります。

今後とも東京慈恵会医科大学西部医療センターをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



最新鋭の施設と設備で 地域医療への貢献に 取り組みます



藤井英紀さん
副院長、患者支援・医療連携センター長、
整形外科診療部長

地域と病院をつなぐ「ガジュまるホール」

新病院は最新かつ高水準の医療設備の導入などにより、病院機能が大幅にアップしました。ここでは患者さんはじめ、地域の皆さんにぜひその一部をご紹介しますと思います。

まず、エントランスホールのすぐ隣に設けられた「ガジュまるホール」です。地域との交流拠点を目指して作られた施設で、通常は主に健康推進センターの事業として、公開講座「慈恵ガジュまる教室」を定期的に開催し、ヘルスケア講演や相談、セミナーなどを行い、地域の皆さんの健康を守るための取り組みを行います。

手術の負担をより軽減するロボット支援手術システム「ダビンチ」

リニューアルオープンに伴い、より安心で質の高い医療を提供するための取り組みの一つとして、ロボット支援手術システム「ダビンチ」を導入しました。これは患者さんの体内に3D内視鏡カメラとアームを挿入し、手術担当の医師が遠隔操作でアームを操作して手術を行うもので、細やかで安定した動きを可能にする手術支援システムです。

手術による切開の傷口はごく小さいので、出血や術後の疼痛など、患者さんの体への負担が最小限に抑えられ、術後も早期の回復が見込まれます。

ロボット支援手術の導入は、現在の治療の幅を広げるだけでなく、将来にわたって安定した医療を提供していくための体制づくりの一環です。今後は、各診療科で適切に活用しながら、患者さん一人ひとりに合った治療の選択肢を広げていきます。

患者さんも地域の方も、「また来たくなる」ような病院を目指して

また、当院は東京都の災害拠点病院の指定を受けており、災害が起きた際には、ガジュまるホールが地域の緊急病棟の役割を担います。ホールの壁には酸素吸入や吸引が行える機能や非常電源などが設置され、治療を行うことが可能で、最大12床のベッドを入れることができます。最新鋭の設備を備えた強力なインフラとして、地域の皆さんの健康や安全・安心を提供できると確信しております。



1階の「ガジュまるホール」。慈恵西部健康推進センターによる公開講座「慈恵ガジュまる教室」を定期的に開催し、ヘルスケア講演や相談、セミナーなどを行っています。

地域初の「脳神経・脳卒中センター」

新しい施設や設備の中でも、地域医療でより重要な役割を果たすと考えられるのが脳神経・脳卒中センターです。

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害の急性期治療を24時間体制で行うSCUを設置しました。これまで、この周辺の地域は、脳卒中に対して緊急に対応できる専門医療機関の空白地帯になっていましたが、今回、脳神経・脳卒中センターを立ち上げたことで、迅速に、最新の高度な医療を地域の方たちに提供できるようになりました。

救急体制でより迅速な対応が可能に

それと同時に、救急体制の機能も一元化し、これまで以上に高度かつ効率的なエリア構築を実現しました。

例えば、脳疾患の患者さんが救急で搬送されてきた場合、専用のエレベーターで造影室や手術室・処置室までダイレクトにたどり着くという、全て救急エリアの中で完結する構造に



なっています。無駄のない動線により短時間で適切な処置に至ることで、ダメージを可能な限り小さく抑え、早期の回復が期待できるというわけです。

なお、病床数は581床から494床と縮小しましたが、個室をこれまでの77室から166室へと大幅に増やし、多床室を含め、全ての病室にトイレを設置しました。7階の21床の個室は周辺地域では初めての緩和ケア病棟となっています。

これらの新しい施設・設備を最大限に活用し、これまで以上に高度で質の高い医療を地域の方たちに提供できるよう、全力で取り組んでまいります。

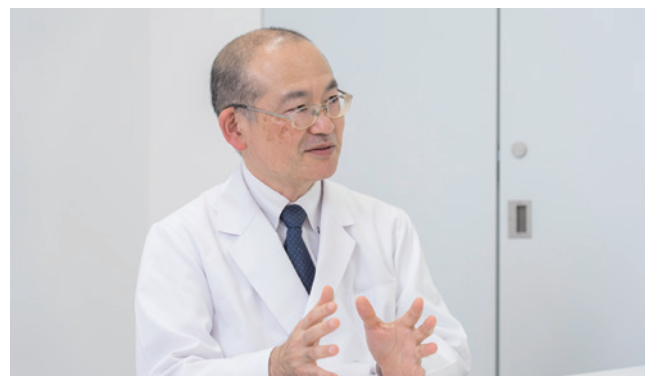


「患者支援・医療連携センター」の窓口には、看護師や医療ソーシャルワーカーが常駐し、入院や在宅医療の支援のほか、様々な相談に対応しています。

入院から退院後までを支援 「患者支援・医療連携センター」

エントランス左手のコーナーには「患者支援・医療連携センター」の窓口が設けられ、入院前から退院後までの患者さん・ご家族の支援や地域の医療機関をつなぐ役割を担っています。センターは医療連携室、ソーシャルワーカー室、在宅・入退院支援室の部門から構成されています。センターの近くにはがん相談支援センター、認知症疾患医療センター、栄養相談室もあり、手術・検査や入院、費用、退院までのあらゆる手続きや薬や栄養についての相談など、患者さんやご家族は各部署をあちこち移動することなく、ここ1カ所ですべてすまさせていただきます。また、退院後の在宅療養などの支援も院内外の関係機関と協力しながら、切れ目のないサポートを行っています。

これまで以上に地域の方たちに、「病気になったときには、ここで診てもらいたい」と思ってもらえるような病院を目指していきたいと考えています。



受付に看護師が立ち、症状や重症度をまず判別

新病院の運用を検討するにあたり、私たちは患者さんの生活と医療を少しでも快適に外来で「つなぐ」ことができないかを考えました。そのためにはまず患者さんの動線考えた設計の外来にすることが重要です。

そこで患者さんが来院されたときに、最初に行く場所である受付では、事務員のほかに、看護師が立つことを始めました。

外来の受付では、初診の患者さんの場合などは、それぞれの症状や重症度、緊急度に対して迅速な判断と対応が求められます。この段階での判断が適切に行われなかった場合、治療や処置に至るまでに時間がかかり、非効率なだけでなく場合によっては、患者さんの生命に関わることもあるからです。

そこで正しい鑑別・判断を行うためには、看護師という高いトリアージ技術を持った人員を前線に置くべきとの考えに至りました。前線に看護師が入る体制を採用している医療機関は、全国的にもまだ限られているのではないかと思います。



各診療科の受付には事務員のほか看護師も受付に立ち、患者さんの症状などを聞き取り、適切な診療科にご案内します。

外来ブースはフリーアクセスに

次に医師の診療スペースの見直しです。各科の外来ブースの場所は、従来、診療科ごとに決められた「固定型」から「フリーアクセス型」に切り替えました。

従来の固定型ですと診療に必要な道具や書類などの配置場所も固定されてしまい、その診療室以外での診療は難しかったため、長時間お待ちいただくことも多く、患者さんのご負担になっていた面もありました。現在は、各エリアでそのとき空いているブースをどこでも使用できるため、臨時の患者さんなどの診療もスムーズに進み、より多くの患者さんを診察できる



外来のブースはエリアごとに複数の診療科で共有し、フリーに使用することで、待ち時間の短縮化につなげています。

に集約しました。

診療の場と処置の場が別になるので、患者さんには少し移動していただく必要がありますが、集約化することで作業が効率的に対処でき、また、その分のスペースを診療用のブースにあてることによって、より多くの患者さんの診療が可能になっています。

6つの受付・カウンターのどこでも会計が可能

外来の患者さんの負担を減らすという点で、最も力を入れたのが会計です。これまでのシステムでは1カ所の会計ホールで患者さんをお待たせしてしまうことが多かったのですが、新病院では1・2階に6カ所ある受付や外来カウンターのどこでも会計が済ませられるようにしました。

会計は医事業務の中で、非常に高い専門知識を必要とするため、人材を数多く育てることに注力してきました。開院直

患者さんの目線で院内をデザイン

新病院の外来フロアは、来院される患者さんやご家族が快適に利用できるようにデザインされています。コンビニエンスストアやカフェスペースは、患者さんやご家族が利用しやすいよう、エントランスホールのすぐ横に併設。2階には外来用のラウンジも設けられています。診療科や検査室が集中する2階外来フロアは、要所要所の壁面に案内表示を大きな文字で表示するなどの配慮を施しました。

一方、当院が地域の一部として開かれた場所でありたい、そんな思いから誕生した「ガジュまるホール」は、エントランスホールのすぐ隣に設けられており、地域の誰もが立ち寄りやすく、つながりを感じられる場所です。ホール内にはキッチンカウンターも併設し、実際に調理しながら栄養講座などを開いたりすることも可能です。

また、ホール前のホワイエのソファは、災害時にはベッドとして使用できるものを採用。非常電源装置や酸素吸入器などは激面に格納されており、災害時の地域医療の拠点となり、住民の方たちの安全・安心に貢献できる設計となっています。

外来患者さんの動線を見直し 受付から会計までを よりスムーズに



平野景太さん
副院長、腎臓・高血圧内科診療部長、
新病院運用検討WG外来リーダー

後1カ月の待ち時間の状況を調べたところ、会計の算定で10分を超えてお待たせするケースはありませんでした。

今後も外来における受付、診療、処置、会計の個々の工夫により、患者さんの生活と医療をさらに快適に「つなぐ」ことを目指してまいります。



カウンターは1階に1カ所、2階に4カ所設けられており、どこでも会計が可能です。





慈恵ガジュまる教室



ガジュまるホールで初めての「慈恵ガジュまる教室」を開催

1月31日、ガジュまるホールのこけら落としとなる「慈恵ガジュまる教室:健康シンポジウム」が開催され、たくさんの地域の方たちにご参加いただきました。

今回のテーマは、「健康は「なる」ものじゃない「つくる」もの」。第1部の個別講演では外部講師の方たちに加え、当院医師の仙石鍊平健康推進センター長が講演を行いました。

第2部のメインはゲストの指導による体操の実践。参加者の皆さんも楽しそうに体を動かしていました。

「ガジュまる」という名前は、「健康」という花言葉を持つ南国の樹木ガジュマルに由来しており、幸せを運ぶ精霊キジムナーが宿るといふ言い伝えもある木です。新たなスタートを切り、前に進んでいくという思いを込めて、船の名前のイメージで「ガジュまる」の「まる」の部分をはらがなにしました。

今後も慈恵西部健康推進センター（JHOP Centre）では様々なテーマで「慈恵ガジュまる教室」を開催していきます。どうぞお気軽にご参加ください。



慈恵ガジュまる教室実施情報

- 日時: 2026年1月31日(土) 14:00~16:00
- 会場: ガジュまるホール
- 参加人数: 140名

ラジオ体操の実践指導で体を動かす参加者の皆さん。

患者さんの声にお答えします！

患者さんから寄せられたご質問やご要望をご紹介します、当院の取り組みについてご説明します。

VOICE 1

会計の後払いシステムはどのように利用できますか

当院の取り組み

後払い会計の利用方法はこちらのQRコードから詳細ご確認いただけます。



VOICE 2

かるがも学級に参加し、育児のポイントを教えていただいたり、日頃の疑問を相談できるとも良い機会でした。同じ時期に出産した方とも知り合え、子育てへの安心感とリフレッシュにつながりました。ありがとうございました。

温かいご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。かるがも学級が、育児への安心感やリフレッシュにつながったとのこと、大変うれしく思います。今後も、保護者の皆さまが安心して子育てに向き合えるよう、取り組んでまいります。

過去の「患者さんの声」はこちら



来院される患者さんは、どなたも何かしらの不安を抱えていらっしゃると思います。スタッフ一同、それぞれの専門分野で、できるだけ患者さんの不安が軽くなるよう、努力して参りたいと考えております。



東京慈恵会医科大学西部医療センター
〒201-8601 東京都狛江市 和泉本町4丁目11-1

〈受付時間〉8:00-11:30 〈診療時間〉8:45~

〈休診日〉日曜・祝日、大学記念日(5/1、10月第2土曜)、年末年始(12/29~1/3)

上記以外の休診日につきましては当院ホームページをご確認ください。

〈お問い合わせ〉03-3480-1151(大代表)、<https://www.jikei.ac.jp/hospital/west-medical-center/>

発行:東京慈恵会医科大学西部医療センター広報委員会

